

未来への地図

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

公共工事とは全く関係のない松山のアロマハウスLEAL E Aというお店で、インスタクターをしている三瀬さんのFacebookに面白い投稿がありました。転載の許可をいただいたので紹介します。

「アロマのお店でちよっとーんと考えることがあってそれを昨日店長にメールで伝えたら、言葉ではなく行動で示してくれ、その後、こうすればいいからと言ってくれました。店長は頭が切れる

自然災害と建設業 ⑥

いのです。私も見習って、すぐに答えを出すことに最近心がけていて今回のメールも、その流れで送ったものです。

ところが今日から店長が行動に移しました。お互いに答えを出すのが早いとこんなに進んだなと思えました。

はこの記事を読んでこれこそがワンデーレスポンスの真髄ではないかと感じました。ショップはお客様が明確です、消費者の好みはすぐ変わるのでもいつも敏感に

足できる商品を紹介していく必要があります。だからワンデーレスポンスという「悠長」な仕組みどころか瞬間判断が常に必要になってきます。

現場も災害時には受発注者が共に素早い判断で復旧を進めているはずで、それが平常時には機能しなくなるのが人間(組織)の問題行動だと思えます。ワンデーレスポンスとは何か、このようなフローでとか、後で調査をするとかいうつまらない枠の中で決め事をするのではなく、お互いの信頼関係がいかに大切かということをお教えしてくれた投稿でした。

社内ワンデーレスポンス

信頼関係こそが大切

われていたものを7月くらいからがいいのでは...と提案した

はとも勉強になります。どうでしょう、私

応しなければなりませんし、個人人の好みを瞬時に把握し満

現場も災害時には受発注者が共に素早い判断で復旧を進めているはずで、それが平常時には機能しなくなるのが人間(組織)の問題行動だと思えます。

業界だけであらうかと考えるだけでなく、他の業界のことも知り、受発注者お互いの商習慣を変えていく必要があるのではないのでしょうか。

未来への地図

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗



「災害の発生時に真っ先に頭に浮かんだのは地域住民を守る

話をして本ただけであとは自分の役割を全うすることしか考えられなかった。

自然災害と建設業 ⑦

家族は別の所に住んでいたのですが、そこも大きな被害があり気にはなっていたのです。電

孤立集落の有無を確認し、あれば最優先での対応をしなければならぬと全員体制で取り組

んでいたが、情報が錯乱しどれが本当の情報なのか分からない、だから自分の目で見に行くしかなかったんです。

怖いという気持ちはありませんでした。ただ人災を出さないように必死で対応したという記憶しかありません。

まず災害現場状況の把握、道路の冠水や林道が塞がれている、そして道路が復旧できないと消防や警察も現場に行けな

ことが難しかった。全員体制で取り組んだのですが、数年前の竹田での大水害を経験していたのである程度冷静に対応できたのではないかと

応訓練を職員が行っており、それも大きな成果として対応できたのではないかと

九州北部集中豪雨災害から学ぶ

地域を守るという使命

民に迂回するように指示を出し続け、自らが孤立してしまつという場面もありました。

対応できるか、道路などの施設をどれだけ早く復旧できるかということに尽きます。

行つのですが、最近重機を持って業者さんが少なくなり、スガが多くなっているためすぐに対応する

予算が縛られている中で、今ある地域住民の生活を守るために効率、効果的な公共工事を推進していく必要性を強く感じていると話してくれました。

十年前は無駄な公共事業だと批判されていた防災工事が今になって人の命を救ってくれているのです。

